

静岡県立こども病院清掃等業務仕様書

静岡県立こども病院（以下、「甲」という）における清掃等業務は、契約書に定めるもののほか、本仕様書、作業対象箇所一覧表、受託者（以下、「乙」という）の作成した企画提案書（標準作業書、業務実施計画書等の関連文書を含む。）（以下、「仕様書等」という。）に基づき実施する。

なお、仕様書等に記載のない事項についても、建物の管理上及び美観上必要と認められる軽微な作業については、委託費の範囲内で実施すること。

I 一般事項

1. 業務区分

区分	概要
日常清掃	主に日あるいは週単位の短い周期で実施する清掃や、廃棄物等の回収、患者退院後の病室清掃を示す。
定期清掃	月あるいは年単位の周期で実施する清掃を示す。
殺菌消毒	手術室の術後及び月 1 回行う殺菌消毒や、無菌室の清掃、感染症患者が使用した病室の退院清掃を示す。
防虫・防鼠	院内の害虫及び鼠の発生状況の調査及び防除業務を示す。

2. 業務時間

原則として、6：30～16：00（殺菌消毒業務及び防虫・防鼠業務を除く）の間に行うこと。

なお、「作業対象箇所一覧表」にて時間が指定してある場合は、当該時間に実施すること。

ただし、場所によっては時間外の実施を認めることがあるので、甲と協議すること。

3. 清掃資器材

- (1) 清掃作業に使用する機械、材料、消耗品（洗剤・薬品等）は、あらかじめ甲に文書で提示し、甲の承認を得ること。
- (2) 洗剤・薬品等は、清掃部分の材質を傷めずに汚れを除去できるもので、作業員の人体及び環境に配慮したものを使用すること。
- (3) 乙は、従業員が使用する資器材を常に把握し、甲の承認を得ていない資器材の使用がないように管理すること。
- (4) 本仕様書に特定の資器材を指定している場合は、甲の許可なく変更してはならない。
- (5) 本仕様書で定める清掃区域ごとに使用する資器材（モップ、クロス等）を区別し、混用しないようにカラーリング等を施すこと。
- (6) モップやクロス等の資器材は、使用後に所定の場所で洗濯・乾燥を行い、その他の資器材についても清潔に管理すること。
- (7) 清掃カート及び廃棄物搬送用のカートは乙の負担にて必要台数を用意すること。
- (8) 資器材は、甲が指定する場所に整理して保管すること。

4. 清掃区域

院内清浄レベルによる清掃区域の設定（ゾーニング）は以下のとおりであり、これらの区域で使用する用具一式は専用とし、他の区域の用具と区別するため、カラーリング等を施すこと。

清 潔 区 域	手術室、分娩手術室、ハイブリッド血管撮影室、中央材料滅菌室、NICU、GCU、HCU、PICU、CCU、MFICU、無菌製剤室、北 5 病棟クリーンルーム、
準 清 潔 区 域	北 3 病棟、北 4 病棟、北 5 病棟、西 2 病棟、西 3 病棟、西 6 病棟、救急外来、診察室、処置室、調剤室、厨房、検査室、放射線科、薬局、リハビリ
一 般 区 域	正面玄関ホール、各事務室、看護部管理室、院長室、会議室、医局、食堂等
汚 染 拡 散 防 止 区 域	感染症患者用の病室・診察室、解剖室、中央材料室（汚染物処理区域）、細菌検査室
汚 染 区 域	トイレ、浴室、汚物処理室、洗面所、洗濯仕分け室

5. 費用負担

次に定めるものは甲の負担とする。

施 設	休憩室・資器材置き場：パワープラント棟 2 階
消 耗 品	トイレットペーパー、ペーパータオル、ハンドソープ、ゴミ袋、所定のゴミ容器
そ の 他	業務に使用する光熱水費

6. 現場責任者

毎日の清掃業務には、現場責任者又は副現場責任者のいずれかが常駐し、甲が貸与する PHS を所持する。

7. 作業手順書の作成・提出

乙は、本契約成立後、甲の指示により各作業箇所の作業手順書を作成し、提出すること。

8. 清掃打合せ・清掃ラウンドの実施

- (1) 契約書第 12 条に定める定期の会合については、原則毎月第 4 水曜日の 16:00 から行う。
- (2) 甲の事務担当者及び感染対策室看護師が月 1 回実施する院内ラウンドに、統括責任者及び現場責任者が同行すること。

9. 注意事項

- (1) 作業は、甲の病院業務の妨げにならないよう十分に配慮すること。
- (2) 医療機器、薬剤、診療材料、書類、患者及び職員の私物等には無断で触れないこと。
- (3) 医療機器やベッドを移動する必要がある場合は、各部署の職員に声をかけた上で移動し、清掃後は元の位置に戻すこと。移動の際は、ケーブルやチューブ類が抜けることがないように細心の注意を払うこと。
- (4) 甲の院内感染対策マニュアルに従うこと。

II 日常清掃

1. 実施日・時間

清掃の実施日及び実施時間は次のとおりとする。

なお、「作業対象箇所一覧表」に実施日・頻度・時間が指定されている場所については、指定されたとおりに実施すること。

清掃場所	実施日	実施時間
外来、検査、放射線、正面玄関ロビー、手術室、リハビリ等	外来診療日 (土・日・祝日以外)	6:30～8:00
病棟、救急外来	毎日	8:00～16:00
家族宿泊室	外来診療日 (土・日・祝日以外)	10:00～14:00
上記以外	外来診療日 (土・日・祝日以外)	6:30～16:00

2. 清掃箇所・手順

(1) 床の清掃手順

種類	作業項目	作業内容
弾性床 木質床	除塵	自在箒又はダスタークロスで掃き、集めた塵芥は、所定の場所に搬出する。または真空掃除機で吸塵する。
	水拭き	適正洗剤を用いて、汚れや水滴などが付着した部分をモップで拭く。病室においては、床全面をモップで拭きあげる。
硬質床	除塵	自在箒又はダスタークロスで掃き、集めた塵芥は、所定の場所に搬出する。または真空掃除機で吸塵する。
	水拭き	適正洗剤を用いて、床全面をモップで拭きあげる。
繊維床	除塵	真空掃除機で吸塵する。
	スポット クリーニング	除塵作業だけでは除去できない汚れの甚だしい区域がある場合は、部分的なクリーニングを行う。
畳	除塵	自在箒又はダスタークロスで掃き、集めた塵芥は、所定の場所に搬出する。または真空掃除機で吸塵する。
	スポット クリーニング	除塵作業だけでは除去できない汚れの甚だしい区域がある場合は、部分的なクリーニングを行う。
ジョイント マット	除塵 清拭	真空掃除機で吸塵する。 適正洗剤を用い清拭する。

(2) 床以外の清掃手順

種類	作業項目	作業内容
ごみ回収	ごみ回収 ゴミ袋交換 ダンボール交換	ごみ箱のごみを回収し、容器の外面で汚れた部分は、タオルで水拭きをする。 新しいゴミ袋及びダンボール箱等を設置する。 作業時は手袋を装着する。

種類	作業項目	作業内容
壁・扉・柱	清拭	適正洗剤や殺菌剤入りダスター等を用いて拭く。
窓台・棧 ブラインド	除塵 清拭	適正洗剤や殺菌剤入りダスター等を用いて拭く。
棚 カウンター 備品類	除塵 清拭	適正洗剤や殺菌剤入りダスター等を用いて拭く。
手すり ドアノブ 電灯スイッチ	清拭	適正洗剤や殺菌剤入りダスター等を用いて拭く。
トイレ 洗面所	洗面台 水栓拭き	適正洗剤を用いスポンジで洗浄し、乾いたタオルで拭く。 水石鹼等との設置面は水が溜まりやすくカビや細菌が繁殖しやすいため忘れずに洗浄・乾拭きをすること。 排水溝をブラシ等で磨く。
	鏡拭き	適正洗剤を用いて拭き、乾拭きして仕上げる。
	衛生器具洗浄	適正洗剤を用いて洗浄し、拭く。 尿石付着部分については、尿石除去剤を使用すること。
	温水洗浄ノズル	適正洗剤を用いて汚れを除去する。
	衛生消耗品補充	トイレットペーパー、ペーパータオル・水石鹼を補充する。
	汚物容器 汚物収集	内容物を収集し、容器の外面で汚れた部分は、タオルで水拭き及び乾拭きをする。
流し台	洗浄	中性洗剤を用いてスポンジたわしで洗浄し、タオルで拭く。
	厨芥容器洗浄 厨芥回収	厨芥を回収する。 容器を中性洗剤で洗浄する。
	衛生器具洗浄	適正洗剤を用いて洗浄し、拭く。
浴室 シャワー室	浴槽・浴室、 シャワー室洗浄 洗面用具	適正洗剤を用い、ブラッシングとスポンジ掛けを行い、十分にすすぐ。 水あか・カビの発生を防ぐため、適宜漂白洗浄剤等で除菌し、カビ等が発生した場合は直ちに除去する。 浴室・シャワー室にある椅子や洗面器等の用具についても同様に洗浄する。
	排水口	髪の毛や汚れを除去し、詰まりが発生しないようにする。
	脱衣所	(1)に定める床清掃の手順に基づき、髪の毛や埃が残らないよう除塵・清拭する。
フロアマット	除塵	真空掃除機で吸塵する。
建物外周	ごみ・落ち葉回収 害虫対策	外周、バス停付近、駐車場、ロータリー、ピロティ、側溝などのごみや落ち葉の回収をする。 害虫が発生しやすい時期は薬剤散布等の対策を行うこと。
来院者用 机・椅子	清拭	待合や家族控え室等に設置されている来院者用の椅子及び机を適正洗剤を用いて拭く。

(3) 廃棄物処理

① 職員の配置

次の時間帯は、北館及び西館 1 階のごみ集積室に清掃作業員を常駐又は巡回させること。
職員が不在の時間帯は、ごみ集積室を必ず施錠すること。

駐 在	毎日 8 : 00～9 : 00
	平日 14 : 00～15 : 00
巡 回	平日 8 : 00～16 : 00 の内、駐在時間を除き、1 時間に 1 回以上
	土日祝日 8 : 00～12 : 00 の内、駐在時間を除き、1 時間に 1 回以上

② 手順

廃棄物の回収・処理の手順は、次のとおりとする。

作業時には必ず耐貫通性の手袋を着用し、必要に応じてマスクやガウン等も着用もすること。
なお、各廃棄物の分別方法は、院内感染対策マニュアルに従い、それぞれを混合しないこと。

種類	作業内容	
一般廃棄物 (可燃物)	各所の一般廃棄物（紙ごみ、オムツ等）をダムウェーター又はカートで所定の集積所に運搬する。	
不燃物 (ビン・カン等)	各所のビン、カン等の不燃物を区分し、ダムウェーター又はカートで所定の集積所に運搬する。	
ペットボトル プラスチック	各所で分別されたペットボトル、プラスチックを、ダムウェーター又はカートで所定の集積所に運搬する。	
感染性廃棄物	青ビニール袋	ビニール袋に入っている廃棄物は、ダムウェーター又はカートで所定の集積所に運搬する。 集積所に集まった袋は、専用のダンボール箱に梱包する。 梱包したダンボール箱に排出した部署を記入する。
	ダンボール箱 ペール缶	蓋が確実に閉まっていることを確認した上で、カートで所定の集積所に運搬する。 各容器に排出した部署を記入する。
古紙 ダンボール	カートで所定の集積所に運搬する。 一般廃棄物の紙ごみと混合しないよう注意すること。	

(4) 臨時清掃

甲の指示・要請に基づき、次のとおり指定する場所の清掃を行う。

① 家族宿泊室

防災センターからの連絡により、利用者が退出した部屋の清掃を行う。

区分	項目	手順	年間件数
仮泊室	宿泊室清掃	(1)(2)に定める清掃手順に基づき、室内の清掃をする。	約 300 件 (月 25 件)
	冷蔵庫清掃	庫内に残っている食品等を廃棄する。 付着している汚れをタオルで水拭き又は適正洗剤で拭き取る。	

仮泊室	電子レンジ清掃	付着している汚れをタオルで水拭き又は適正洗剤で拭き取る。	
コアラの家	宿泊室清掃	(1)(2)に定める清掃手順に基づき、室内の清掃をする。	約 80 件 (月 6、7 件)
	冷蔵庫清掃	庫内に残っている食品等を廃棄する。 付着している汚れをタオルで水拭き又は適正洗剤で拭き取る。	
	電子レンジ清掃	付着している汚れをタオルで水拭き又は適正洗剤で拭き取る。	
	掃除機 紙パック交換	各室に設置されている掃除機の紙パックを交換する。	

② 患者退院後の清掃（感染症患者退出後の清掃を除く）

病棟看護師からの要請に基づき、指定された病室の清掃を行う。

種類	項目	手順
病室清掃	除塵・清拭 洗浄等	(1)(2)に定める清掃手順に基づき、室内の清掃をする。
床頭台 照明器具	除塵・清拭	床頭台上部や病床に設置された照明器具を適正洗剤や殺菌剤入りダスター等を用いて拭く。
メディカル コンソール	除塵・清拭	上部を適正洗剤や殺菌剤入りダスター等を用いて拭く。
天吊り モニター	除塵・清拭	上部を高所用の清掃器具で除塵し、適正洗剤や殺菌剤入りダスター等を用いて拭く。
空調 吸排気口	除塵	真空掃除機で吸塵、又はタオルで水拭きする。 給排気口の部品の取外しは行わないこと。

③ 汚物・血液等の清掃

項目	手順
汚物等拭き取り	手袋を着用し、乾いたペーパータオルで汚物等を拭き取る。 拭き取ったペーパータオルは感染性廃棄物として処理する。
消毒	次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませたモップ等で清拭する。

④ クモの巣・害虫の死骸・害鳥の巣及び糞等の除去

正面玄関や待合等、来院者がよく目にするエリアにおいて、クモの巣や害虫の死骸、鳩や燕等の糞や巣等を除去すること。

(5) 留意事項

① 東 2 病棟（精神科病棟）

東 2 病棟の清掃は、次の事項を遵守すること。

ア 2 人一組で実施すること。また、清掃職員は固定すること。

- イ 看護師又は事務職員が清掃に立ち会うことがある。
 - ウ 薬剤や用具の持込を一部制限する場合がある。その際は看護師の指示に従うこと。
 - エ 施錠されている部屋は清掃のつど看護師が開錠する。必要時に声をかけること。
 - オ 風呂場の清掃は毎日時間を固定して行い、清掃完了後に浴槽のお湯張りをすること。
 - カ 持ち込み清掃用具は固定とし、入出時に用具が全て揃っていることを確認すること。
ハサミやカッター等の危険物は一切持ち込まないこと。
- ② こころの診療科外来
職員専用エリア（診察裏通路、トイレ等）の清掃は、職員立ち会いの下で実施すること。
- ③ 理学療法室
(1)及び(2)で定める清掃箇所その他、以下の場所も清掃すること。
ア マットを粘着テープ式カーペットクリーナーで除塵する。
イ 歩行訓練用の平行棒及び手すりを適正洗剤を用いて清拭する。
- ④ ゴミ回収
日常清掃の頻度が1回／日以下の場所についても、ゴミの回収を1回／日実施すること。
- ⑤ トイレ清掃
ア 「作業対象箇所一覧表」に清掃回数が「2回以上」と記載されているトイレについては、午前・午後にそれぞれ1回以上実施すること。外来エリアのトイレについては、1回目を8:15までには実施すること。
イ 清掃中であることが分かるように、トイレの出入口に看板を設置すること。
- ⑥ 感染症流行時のトイレ清掃
ノロウイルスの流行時期のトイレ清掃では、希釈した次亜塩素酸ナトリウムを用い、衛生器具の洗浄や利用者が頻回に触れる場所の清拭を行う。
開始時期については、甲と協議の上決定する。
- ⑦ その他
上記に定める清掃箇所その他、明らかに汚れが目立つものについては、本仕様書及び「作業対象箇所一覧表」に定める清掃回数に関わらず早急に必要な清掃を行うこと。

Ⅲ 定期清掃

1. 実施日・頻度・時間

清掃の実施日・時間は次のとおりとする。

実施頻度は、原則月1回とするが、「作業対象箇所一覧表」に実施日・頻度・時間が指定されている場所については、指定されたとおりに実施すること。

場所	実施日	時間
外来、検査、放射線、リハビリ、医事課、 正面玄関ロビー、	土・日・祝日	8：00～16：00
手術室	毎月第3土曜日	8：00～16：00
上記以外	問わない	13：00～16：00

2. 清掃箇所・手順

(1) 床の清掃手順

種類	作業項目	作業内容
繊維床	表面洗浄	洗浄水の侵入のおそれのある箇所は、適正な養生を行う。 椅子等軽微な什器の移動を行う。 床面の除塵を行う。 カーペット床全面を洗浄し、汚れを除去する。 移動した椅子等軽微な什器を元の位置に戻す。
弾性床 硬質床	表面洗浄	洗浄水の侵入のおそれのある箇所は、適正な養生を行う。 椅子等軽微な什器の移動を行う。 床面の除塵を行う。 適正に希釈した表面洗浄用洗剤を床面に塗布する。 洗浄用パッドを装着した床磨き機で、表面の汚れを洗浄する。 吸水用真空掃除機又は床用スクイジーで汚水を除去する。 水拭きを行い、汚水や洗剤分を除去した後、十分に乾燥させる。 樹脂床維持剤を、塗りむらのないように格子塗りし、十分に乾燥する。(塗布回数は、原則として格子塗り 1 回)) 移動した椅子等軽微な什器を元の位置に戻す。
	剥離清掃	剥離剤による洗浄は、甲の指示に基づき行うこと。
ジョイント マット	除塵 清拭	ジョイントマットを全て取り外す。 マット下の床面を日常清掃の手順に則って清掃する。 マットを適正洗剤で表面・裏面共に清拭する。 汚れやカビが付着している場合は水洗いをし、十分に乾燥させてから元の場所に戻す。

(2) その他の清掃

次の場所について、定められた回数の清掃を行うこと。

なお、清掃の実施時期については毎年 10 月に甲乙協議の上で決定する。

場所	頻度	作業項目	作業内容
窓ガラス	年 2 回	洗浄	クモの巣を除去する。 ガラス面に適正に希釈した中性洗剤を塗布し、汚れを除去して、ガラススクイジーで汚水を切る。 ガラス面の隅の汚水をタオルで拭き取る。 ガラス回りのサッシをタオルで清拭する。
網戸	年 2 回	洗浄	刷毛又は真空掃除機で表面や溝の除塵を行う。 専用洗剤を用いて汚れを除去し、汚水を拭き取る。 水拭きを行い、乾拭きして仕上げる。 ※建物に固定された網戸で、水圧式の洗浄機を使用する場合は、別途協議する。
ベランダ 非常階段 西館塔屋 ピロティ	年 2 回	洗浄	粗ごみを拾う。 苔や鳥の糞等の汚れをブラシや洗浄機でこすり落とす。 クモの巣を除去する。
空調機 給排気口	年 3 回	除塵	真空掃除機で吸塵、又はタオルで水拭きする。 給排気口の部品の取外しは行わないこと。

場所	頻度	作業項目	作業内容
蛍光灯かさ	年 2 回	除塵	適正洗剤や殺菌剤入りダスター等を用いて拭く。
天吊り看板	年 2 回	除塵	適正洗剤や殺菌剤入りダスター等を用いて拭く。
プランターボックス	月 1 回	除塵	粗ごみを拾う。 タオルで水拭きまたは適正洗剤や殺菌剤入りダスター等を用いて拭く。
パンフレットスタンド	月 1 回	除塵 清拭	適正洗剤や殺菌剤入りダスター等を用いて拭く。
北 5 病棟 浴室	月 1 回	カビとり	希釈した次亜塩素酸ナトリウムを用い、浴室の床、壁、浴槽、洗面用具等のカビを除去する。 実施日については、甲と協議の上で決定する。

(3) 留意事項

① 東 2 病棟

開放病棟と閉鎖病棟の定期清掃は別日に実施すること。

② 手術室

ア 手術室ホール、通路、事務室等の共有部の清掃は、手術室の殺菌消毒と同日に行うこと。

イ 器材置きについても、器材を移動させて床の洗浄を行うこと。

ウ 医療機器の移動に際しては、電源コード等が抜けることがないように注意すること。

IV 殺菌消毒

1. 術後清掃（分娩手術室を含む）

手術終了後に、次のとおり各手術室の消毒を行う。

(1)実施日・時間	月曜から金曜日（祝日を除く）の 16：00～18：00、6：30～8：00 ※当日に清掃できない部屋を、翌日の 6：30～8：00 に行う。
(2)作業場所	西館 4 階手術室 7 室、西館 2 階分娩手術室 1 室
(3)作業員数	16：00～17：00 は、4 名 1 組で実施する。 その他の時間については、2 名 1 組で実施する。
(4)年間回数	244 回×8 室
(5)服装	手術室消毒専用の作業服及び靴を着用する。 ディスポーサブルのマスク、帽子、手袋を装着する。
(6)作業手順	別に定める手順書に従う。
(7)薬剤	CDC（米国疾病管理予防センター）ガイドライン及びその他関係ガイドラインに基づき主として下記の薬剤から適切なものを決定し、事前に甲の承認を得ること。 ・ 0.2%アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩液 ・ 0.2%ベンザルコニウム塩化物液 ・ 0.2%ベンゼトニウム塩化物液 ・ 0.2～0.5%両性界面活性剤

2. 手術室定期消毒

(1)実施日・時間	西館 4 階手術室：毎月第 3 土曜日 8：00～16：00 西館 2 階分娩手術室：外来診療日 13：00～15：00 ※緊急手術により実施できない場合は、当該エリアのみ別日に実施する。 ※工事等で日程を変更する場合がある。
(2)作業員数	3 名～5 名程度 ※特に作業人数は指定しない。
(3)作業場所	西館 4 階手術室 西館 2 階分娩手術室（手術室、前室）
(4)年間回数	12 回（月 1 回）
(5)服装	手術室消毒専用の作業服及び靴を着用する。 ディスポーサブルのマスク、帽子、手袋を装着する。
(6)作業手順	別に定める手順書に従う。
(7)薬剤	CDC（米国疾病管理予防センター）ガイドライン及びその他関係ガイドラインに基づき主として下記の薬剤から適切なものを決定し、事前に甲の承認を得ること。 ・ 0.2%アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩液 ・ 0.2%ベンザルコニウム塩化物液 ・ 0.2%ベンゼトニウム塩化物液 ・ 0.2～0.5%両性界面活性剤

3. 北 5 病棟無菌室消毒

(1)実施日・時間	毎日 8：00～11：30 ※病棟の日常清掃時に合わせて実施する。
(2)作業場所	北館 5 階無菌室 A・B
(3)服装	ディスポーサブルのエプロン、マスク、手袋、帽子を着用する。
(4)作業手順	日常清掃の手順(1)(2)のとおり実施する。 無菌室の清掃を初めに実施すること。 入室時に必ず手洗い及びアルコール消毒剤による手指消毒をすること。
(5)薬剤	薬剤及び環境クロスは病棟に設置されているものを使用する。

4. 感染症患者退院後清掃

(1)実施日・時間	毎日 8：00～16：00 病棟職員からの要請に基づき随時実施すること。
(2)作業場所	全病室
(3)年間回数	約 300 件（月 25 件）
(4)服装	ディスポーサブルのマスク、手袋を着用する。 病室によっては、エプロンやガウン、帽子等の着用を要する。

(5)作業手順	患者退院後の清掃に定める項目を行う。 その際、床の清掃、壁や備品類の清拭に用いる薬剤は、次項(5)にて指定するものを使用すること。 室内全てのカーテンを取り外し、病棟リネン庫に保管されている予備と交換する。 ロールスクリーンは指定薬剤を用いて清拭する。
(6)薬剤	希釈した次亜塩素酸ナトリウム

V 防虫・防鼠

ねずみ・害虫等の発生・生息場所及び進入経路、被害の状況について調査をし、その結果に基づき、発生防止対策、防除作業等の作業計画を作成の上、防除作業を行う。

1. 用語の定義

(1) ねずみ・害虫等

ねずみ、昆虫その他の人の健康を損なう事態を生じさせるおそれのある動物をいい、ねずみ、ゴキブリ、ハエ、蚊、ダニ等のいわゆる衛生害虫のように病原微生物を媒介する動物をいう。

(2) 防除

防除とは、「予防」と「駆除」の両方を含めた言葉である。ねずみ等が発生・侵入しないようにすることで被害を事前に防止することが「予防」であり、建築物内に生息するねずみ等を殺滅するための処理が「駆除」である。

2. 業務の実施時期・時間等

調査及び防除作業の実施にあたっては、1週間前には実施予定日を甲へ報告し、承諾を得ること。

場所	実施頻度	実施日	時間
R I 浄化槽	5月・11月（年2回）	土・日・祝	9：30～16：00
厨房	毎月（年12回） 4月、12月、2月は調査のみ	毎月第4又は 第5木曜日	18：30～20：00
上記以外※	5月～11月、1月、2月（年9回）	土・日・祝	9：30～16：00

※西館、北館、本館、新外来棟の全域を対象とし、エレベーター昇降路、ピット内など普段入ることのできない箇所、高所で届かない箇所は除く。

3. 調査項目

(1) 聞き取り調査

施設管理担当者及び各エリアの職員から目撃情報、被害状況を聞き取る。

(2) 目視による調査

ねずみについては糞や足跡、鳴き声等、害虫については、死骸、糞等を目視により確認する。

(3) トラップ等による調査

粘着シート等を利用した調査。

(4) 環境調査・施設調査

清掃状況や厨芥類・ゴミの管理状況等の調査、並びに、施設に侵入できる隙間がないか等の施設調査。

4. 防除

(1) 作業

調査結果に基づき、「発生防止対策」「施設改善」「防除作業」措置の提案書・作業計画を作成し、甲に提出し承諾を得ること。

防除作業に先立ち、作業終了後、死鼠の処分や殺鼠剤、トラップを撤収し、安全に配慮する。殺虫剤や殺鼠剤を使用する場合は、薬事法で承認を受けたものを用法、用量、使用上の注意を守って使用すること。

(2) 効果判定

防除作業終了後、措置を行った箇所に対して、4の調査と同じ方法により、効果判定を行う。別途委託者による措置が必要な場合は、甲に提案する。

(3) 留意事項

- ① 薬剤は、有機リン系又はピレスロイド系殺虫剤を使用する。病棟においては、無臭性のものとする。
- ② 殺鼠剤又は殺虫剤を使用する場合は、薬事法規定による承認を受けた医薬品又は医薬部外品を用いること。(昭和35年法律第145号)第14条又は第19条の2)
- ③ 薬剤等は、使用及び管理を適切に行い、病院関係者(利用者、職員、委託職等)及び作業従事者の事故の防止に努めること。
- ④ 厨房、パントリー等においては、食料品が薬剤に汚染することがないように注意すること。
- ⑤ 医療機器類に対しては、絶対に薬剤を噴霧しないように注意すること。
- ⑥ ねずみ・害虫等の防除作業終了後は、必要に応じ、強制換気や清掃等を行うこと。
- ⑦ ねずみ・害虫等の防除作業に用いる機械器具その他の設備については、定期点検及び必要に応じた整備又は修理を行い、安全が確保されたものを使用すること。
- ⑧ ねずみ・害虫等の防除作業に係る苦情又は緊急の連絡に対して、迅速に対応できる体制を整備しておくこと。